

No.222  
2018  
4/24



# はちおうじ

JR東労組  
八王子地本  
八王子地本  
ホームページ  
「東労組八王子」で検索



八地申  
第28号

「びゅうプラザ立川」の(株)びゅうトラベルサービスへの移管中止及び、「びゅうプラザ八王子・国分寺」廃止の見直しを求める申し入れ交渉

## 組合主張

施策の目的と根拠を示すこと。

**移管廃止ありきではなく  
これまで東日本の観光流動を創り出してきた  
旅行業の組合員に報いるべきだ!**

提案を2月5日に受け、職場での面談は3月中旬に1回のみである。今後について家族との相談やじっくり考える時間がない。職場では現在員が標準数を割り「廃止になるから」とお客さまが増加し超勤が増えているなか面談も丁寧にされていない。出向先のVTSの労働条件や、本体の時短や短日が取得できる担務など具体的に示されていない、大きな不安を抱えている。再度、丁寧な面談を求める!

**将来を左右する面談は丁寧に行うべき!**

会社提案では、本体のびゅうプラザが八王子支社から無くなる。旅行業を続けたい組合員からは雇用不安の声が多く出ている。出向や転籍はあり得るのか。

VTSの時短や短日勤務の制度はあるのか。

旅行業が大きく変わろうとしているなかで、立川びゅうプラザは移管するには時期尚早である。VTSに現状の助役1人、営業13人を確保できる体力はあるのか。

国分寺・八王子のびゅうプラザはまだニーズが多く、廃止に対する不満から旅客より暴力事件も発生している。地域と共に歩むのであれば、少数のお客さまも大切に、縮小して存続させるべき。

## 会社回答

八王子、国分寺の収入は対前年度9割に落ち込み、旅行業の厳しさは増している。これまで旅行業は東日本の観光流動を創造してきたが、2005年と比べオンラインは2倍に増え、Webへシフトしている。店舗を求めるお客さまは、立川と吉祥寺へ集約する。

面談は旅行業の会社の考え方を示し、3月中旬から一人ずつ行い、指針に基づき家族状況や将来の希望など把握してきた。コミュニケーションを取りながら面談をやっている。5月の廃止に向けて十分な期間はあった。

**対立!**

環境が変わることは不安であり、一つでも解消したい。面談は再度実施しないが、面談で言い足りないことや不安を持っていることは現場長へ伝え、コミュニケーションを丁寧に取っていく。

**確認!**

雇用不安は起こさない。担務変更や、VTS社員への技術指導として最長3年間の出向はあり得る。転籍規定にVTSは入っていないので、発生しない。

育児短時間勤務制度はある。短日はないが、養育休暇の制度がある。

収益事業として成り立つと判断し、移管していく。体制については、本体から一定程度出向して技術をVTS社員へ継承していく。

**対立!**

それぞれ観光流動商品の収入は、3億2千万円であり対前年比9割である。環境の変化があり、廃止する考えに変わりはない。大人の休日倶楽部の予約センターやWebのフォローも行っていく。

**対立!**

**少数のお客さまも大切にすべきであり、廃止は認められない!  
地域に密着した鉄道を我々の手でつくいだそう!**